

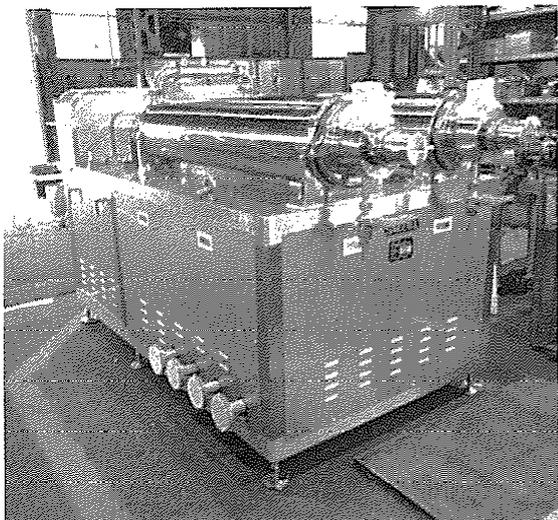
平成30年2月2日

## 日刊工業新聞掲載記事

# 東南アジア市場を開拓

中小の機械メーカー2社が連携して海外展開を積極化する。化学・食品プラント用装置を扱う櫻製作所（大阪市淀川区、井上正基社長、06・6302・5321）とフィルタプレスメーカーの栗田機械製作所（同西区、栗田佳直社長、06・6582・3001）は、2017年末に業務提携。今後、両社は官民連携組織の支援を受けながら東南アジア市場を開拓する。同市場で23年にそれぞれが5億円の上り上げを目指す。

### 櫻製作所と栗田機械が業務提携



櫻製作所の掻取式熱交換器

櫻製作所と栗田機械製作所は、互いのネットワークを活用して市場調査・販路開拓を進めていくことにした。2月にも展示会の共同出展や共同販売ツールの制作、顧客リストの共有・共同提案を開始する。

将来は海外拠点の共同運営、サービス・部品供給での共同拠点活用も行う。体力に不安がある中小企業の海外

進出の方策として注目される。

櫻製作所は16年に官

### ネットワーク活用販路開拓

## 海外拠点を共同運営

民連携組織「新輸出大国コンソーシアム」による海外市場開拓を支援する。

同社は高粘度の原料を過熱・冷却しつつ調合できる装置「掻取式熱交換器」が得意。同製品は化粧品やマーガリン、チョコレートなどの製造工程で使用される。中国や台湾、東南アジアは中間層の所得が増え、パンや菓子など欧米型の食事のニーズが増している。

一方、栗田機械は16年にマレーシアに販売子会社を設置。パーム油精製用途への展開を始めた。自社の技術を生かして高粘性物質で濾過が難しい用途での市場開拓を目指している。